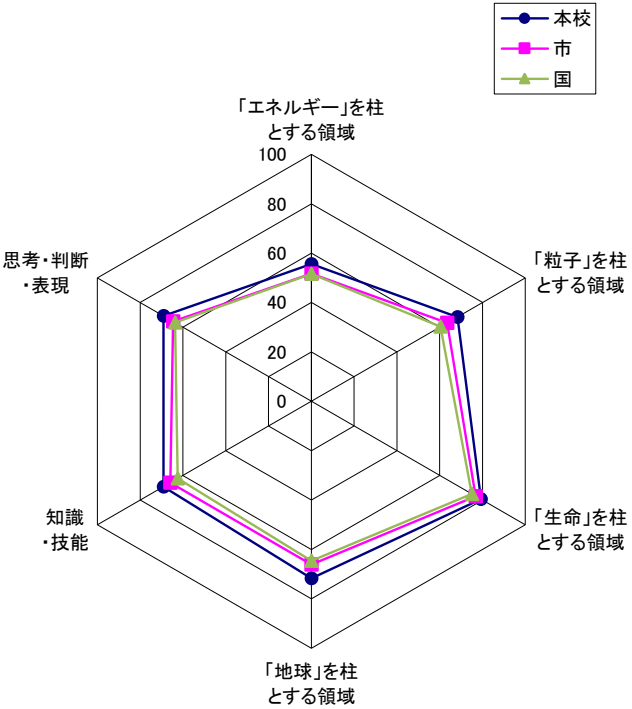


宇都宮市立横川中央小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	55.6	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	68.3	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	79.3	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	71.7	66.1	64.6
観点	知識・技能	69.1	65.9	62.5
	思考・判断・表現	69.1	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○エネルギーの領域における校内正答率は55.6%で、全国の平均を4.0ポイント上回った。 ○実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ設問では、校内正答率は86.5%で、全国の平均を12.1ポイント上回った。 ●「日光は直進することを理解している」を問う設問では、校内正答率27.0%で、全国の平均を0.8ポイント下回った。	・実験の際、児童一人一人に予想させ、なぜそのように予想したのかを考えさせることで、思考の過程を大切にしていけるようにする。また、変える条件と変えない条件に着目して実験を計画したり、結果を的確に処理して考察したりする活動を重点化し、科学的な思考力や表現力の定着を図っていく。 ・「日光は直進する」という概念的な知識を使った多様な問題を実験を通して行い、次の学習や生活などに生かすことができるようにする。
「粒子」を柱とする領域	○粒子の領域における校内正答率は68.3%で、全国の平均を7.9ポイント上回った。 ○メスシリンダーの正しい扱い方を問う設問では、校内正答率84.3%で、全国の平均を14.3ポイント上回った。 ●メスシリンダーという器具の名称を問う設問では、校内正答率69.7%で、全国の平均を1.9ポイント下回った。	・ICT学習ドリル、教科書の確かめ問題やまとめの部分を活用し、既習内容を確認することで定着を図っていく。 ・筋道を立てて説明する力を高めるため、授業中、予想、結果、考察の流れを明確にしたノート指導を行う。考察の際には、自他の考えを比較することで、自分の考えを見直したり多面的に考えたりする場を増やしていく。
「生命」を柱とする領域	○生命の領域における校内正答率は79.3%で、全国の平均を4.3ポイント上回った。 ○観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して解釈して、自分の考えをもつという設問では、校内正答率73.0%で、全国の平均を7.5ポイント上回った。	・ICTを活用した観察記録の取り方を指導するとともに、追加された情報から必要な内容を検討し、観察記録にまとめを行えるよう指導する。自らの考えをもち詳しく記述する時間を確保していく。 ・生命領域のどの単元においても、言葉で整理するだけでなく、大きさ、形、特徴などを繰り返し観察し、そこから考えられる自然の事物・事象について理解を図る。また、授業を進める中で、「なぜ」「どうして」と疑問をもつ機会を増やしていくようにする。
「地球」を柱とする領域	○地球の領域における校内正答率は71.7%で、全国の平均を7.1ポイント上回った。 ○夜の気温の変化について、他者の予想をもとに、記録の結果を現したグラフを見通して選ぶ設問では、校内正答率77.5%で、全国の平均を13.0ポイント上回った。	・観察記録のデータの取り方や処理の仕方、まとめたグラフの見方について十分に指導するとともに、観察記録などのデータと現象とを関係付けて考察する活動を適宜行っていく。 ・実物を用意することが難しいため、ICT機器を有効に活用し、理解を図っていく。 ・実験の結果から、条件によって変化する複数の要因を比較しながら、自分の言葉で考察が書けるように繰り返し指導していく。